

南信州広域連合第10回広域連合会議 結果報告

日時：令和3年1月18日(月) 14:20～15:15

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】14市町村長

〔南信州地域振興局〕丹羽局長

〔飯田建設事務所〕細川所長

〔飯田保健福祉事務所〕手塚副所長

〔町村会〕岡庭事務局長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長・有賀消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長事務取扱・松江事務局次長兼総務課長・伊藤地域医療福祉連携課長
加藤課長補佐兼庶務係長・櫻井課長補佐兼広域振興係長・宇佐美庶務係主事

1 開会…14:20

2 広域連合長あいさつ

年明け初めての広域連合会議、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

高田さんは昨年末で広域連合を退職し、1月1日付けで副市長に選任させていただき、同時に飯田市から広域連合に派遣し事務局長事務取扱とした。

南信州地域としては、1月14日に新型コロナウイルスの感染警戒レベル4に引き上げとなり、その後飯田市は感染警戒レベル5となった。1週間に30名を超える感染者が確認されたので、やむを得ないものと解している。

今日から丘の上のエリアの飲食店について、休業、営業時間短縮というお願ひをさせていただいている。

そういった中での広域連合会議ということで、いつもよりも距離を置き、会議時間も短時間で終了させていただく。

3 協議・報告事項

(1) J R飯田線とリニア中央新幹線との接続方法について(資料No.1)【説明者：佐藤飯田市長】

報道等を通して承知されているかと思うが、J R飯田線とリニア中央新幹線との接続方法について見直しをしたいということで、私から選挙期間中に提案させていただき、その後関係者にも内々には説明をしてきているが、今日は広域連合の場で町村長に考え方を説明させていただきご理解をいただきたいと思い、取り上げさせていただいた。

・経過等について

平成29年1月の伊那谷自治体会議で、飯田市から提案をさせていただいた。J R飯田線乗換新駅の設置を伊那谷自治体会議の検討事項として位置付けること。乗換新駅については、地元の負担設置による請願駅の扱いとすること。設置に関するJ R東海との交渉及び具体的検討の主体は飯田市が担うこと。これらについて、その席上で確認をされた。

この確認事項を踏まえ、乗換新駅設置に当たり必要となる技術的な基準(平面曲線、縦断勾配、旅客ホーム長さ等)について、飯田市として調査・研究を実施してきた。また、J R東海とは長野県と連携しながら協議を継続しているというのが現在の状況である。

私から見直しを提案させていただいている理由は、乗換新駅を作った場合にざっと10億円程度の費用が掛かると見ており、加えてメンテナンス費用などで毎年費用が掛かってくる。そういった固定的な費用が掛かるという選択よりは、今後色々な新交通の技術が出てくるだろうと考えると、乗換えの

利便性とコストパフォーマンスが両立する形を柔軟に考えていく方が良いのではないかと考え提案をしている。このことについては、選挙期間中も概ね市民の皆さんのご理解を得ていると思う。色々な関係者と意見交換をさせていただく中でも、大きな反対意見をいただけていないと認識している。そこで今日、改めて町村長の皆さんにも、私の考えを聞いていただき、ご議論をいただきたい。

・今後の方針について

まず、大前提としてJR飯田線はこの地域にとって必要な路線だと思っている。そのJR飯田線とリニア中央新幹線を接続するという事は、大事な事だということが大前提。その重要課題に対して、接続方法、あるいは具体的な乗換機能等の検討をしっかりとしていきたいと考えている。

乗換新駅を見直したいと言ったときに、JR飯田線との接続について必要ないというふうに誤解をされた向きもあったが、そういうことではないということ、まず大前提として申し上げておきたい。

その上で、先ほど申し上げた理由を持って、今後は乗換新駅というハード整備ではなくて、新しい交通システムを考慮した接続方法を検討していきたいというもの。

リニアの整備効果を広域的に広めていくためには、上伊那、あるいは下伊那の各町村とリニア駅とをいかに利便性よく結ぶか、またそのための2次交通をどう整備するかといった観点は、大変重要である。この観点を踏まえて、JR飯田線とリニア中央新幹線との接続方法に関して、下伊那北部、上伊那方面については、元善光寺駅になるかと思うが、下伊那南部方面についても飯田駅になるのか、伊那上郷駅になるのかパターンがあるかと思うが、利便性が高まる接続となるように、自動運転等の新しい交通手段の導入も視野に入れながら検討していきたい。

今日、このような提案をさせていただき概ね了解が得られれば、次の伊那谷自治体会議において私から提案をさせていただきたいと思っているので、ご意見やご質問があればいただきたい。

(主な意見等)

高森町 : 私は個人的にはこの意見に賛成。新駅を作る必要性を感じていなかった。ただ、新駅を作る方向でずっと動いてきたというのが1つの事実。選挙の公約に掲げているから、それが変わっていいのかというのが、非常に疑問に思う。私たちは4年後に自分がどうなるかわからない。もしかしたら、次の人は新駅を作ると言っているかもしれない。そうするとまた変わる。私たちはそういう立場にあるので、常に動かざるものというのがどこかにあるのではと考えると、個人的には私も必要ないとずっと思っているが、あえて広域連合の場でそうした発言もしたこともないし、それはこれまでに決まってきたいて、そういうふうに動いていくんだらうなという理解でいたのが、それが変わってしまうということに対する市長の説明はどういうふうにされていくのか、すごく難しいだろうと思う。

飯田市 : 選挙の中で提案をして当選させていただいたという、今までの過程のプロセスの外にあるものだが、改めて飯田市として考えを変えて提案をして、ここで了解をいただければ次のプロセスとして、次の伊那谷自治体会議に諮っていきたい。1回決めた計画を、改めて別のプロセスを踏んで変えるということ、妨げ得るものではないかなというのが私の理解。このことを含めて、他の首長方のご意見をいただきたい。

阿南町 : 私は、非常に結構な話だと思っ賛成だ。行政たるものは、持続性の良い先を見通したものをすることが非常に下手。その時、金をかけると後が続かないというのが多い。非常に無駄が多いということを常々感じている。新市長が多くの票を得て当選したという中で、考え方がそうならそういう考え方で、私も同調できるし非常にありがたいと思っている。

豊丘村 : この話は、もう少し前からフィードバックして考えなければいけないかなと思う。元々、リニアの駅については飯田駅併設という話を広域連合で持ち上げたが、それは当然かなわないということで、座光寺の場所で元善光寺の辺ということが、JR東海が示した案だった。そこに、遺跡があるということで、今の場所になったのではないかなと思っている。

動かしたことに対する裏返しの答えとして、新たな新駅を作って飯田線と繋げるようにしたと私は今まで捉えている。気持ちはわかるけど、少しおかしいと思っていた。私としても、このことについては駅は作らずに、この形で進めていただけた方が良くかなと思う。

天龍村 : 南部の飯田線が通っている村として、1つお願いをしたい。
市長の発言によって、マスコミの捉え方、アナウンスによって、村民の受け止め方が非常に強烈になってしまう。市長の乗換新駅を作らないということが先行してしまい、それがあたかも事実かのような、決定事項のようなものになってきている。私は、必ずしも乗換新駅が必要だと固執するわけではないが、新駅か、新しい接続方法か、比較をして、新しい接続方法が良いという話の持って行き方をした方が、私どもの立場から村民に対して説明もできる、1つのものありきではなく、色々な検討の結果、こういう形になったという話をしていただきたい。

必ずしも私も、新駅がどうしても必要だという立場ではないということが前提で聞いていただければと思う。

根羽村 : 新駅については、過去に色々な経過があるわけだが、いずれにしても具体的なことは飯田市で調査をして決定していこうとなっていたと理解している。

今まで報告いただいた中では、傾斜がきついだとか色々聞いている。それを受けて、新駅の設置は非常に難しさがあるということは私は理解して、新しい交通手段で結ぶのは1つの新しい方法だと思うので、方向転換を図るのもやぶさかではない。賛成である。

天龍村長が言ったように、そのことをもう少し市民に上手く伝えるのも1つの方法かと思うのでそこは検討いただきたい。

きちんとした選択肢を出すのは今のタイミングだと思うので、はっきり示した方が良い。私としては、特に反対はなく、きちんと説明できれば賛成である。

飯田市 : 天龍村長の話の踏まえ、今までは乗換新駅という提案をさせていただいていたが、新しいアクセス方法について提案するというのを、きちんと比較をしてということ。すぐ、比較材料が出せるかということ、新しい交通システムの費用については今計算できるものはないのだが、基本的な方針としては、そういった固定費用で何億円もかかるというものを採用しないという前提で提案させていただいているが、そういったことも含めて郡市民の皆さんにご理解いただけるような形で、接続方法について新たに提案していくという形で進めさせていただく。今までの駅を作るという方針から、少し柔軟に考えるように転換をしていきたい。このような形で伊那谷自治体会議に話をしたいと思うがよろしいか。

(異議なしの声)

飯田市 : それでは、このような形で次回以降の伊那谷自治体会議の中で提案をさせていただく。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策について (資料No.2) 【説明者：松江事務局次長兼総務課長】

11月広域連合会議以降の新型コロナウイルスに係る広域連合の取組みについて報告する。

・「新型コロナウイルス感染症に係る雇用拡大等に関する要請書」を、長野県経営者協会飯田支部長、長野県中小企業団体中央会下伊那支部長、飯田商工会議所会頭、長野県商工会連合会南信州支部長の4団体あてに、広域連合長、飯田公共職業安定所長名で提出をした。

・飯田医師会長から「抗原定量検査実施医療機関の検査受付状況について(通知と依頼)」という文書が発出され、それを受けて広域連合長から各市町村に「年末年始における新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底について」という文書が発出させていただいた。

連合長 : 4団体への要請書については、今のコロナ禍における雇用に対する不安があるので、雇用拡大あるいは雇用確保維持等についてお願いをしたもの。

医師会長の通知の関係は、年末年始に人の移動があるので特に抗原定量検査等に対して、市町村において自費検査の助成等をしているということもあるので、それをしっかり維持していただきながら、検査をしっかりと受けていただけるように市町村長にお願いをしてほしいということで、広域連合長名でも文書を出させていただいた。これについては、成人式の延期の検討も含めて、町村長とも相談をさせていただいた。結果として、成人式は延期又は中止となり、この地域では年明け成人式は行われなかった。医師会長からの心配に

対して、各町村でしっかり対応していただいたのは本当にありがたかった。感謝申し上げる。

(主な意見等)

下條村 : 飯田市地域外来・検査センターの検体採取等の実績を報告いただき、ありがとうございます。この他にも色々なところで検査されているが、飯田下伊那管内として現在どの程度検査されているのか、陽性率など、そういった情報を可能であれば定期的にいただきたい。

飯田市 : 飯田市地域外来・検査センターの検査状況は、毎日飯田市のホームページで公表している。

手塚副所長 : 県のホームページで、県全体の検査数と陽性者数、各地域の検査数を、2、3日遅れで公表している。検査体制に余裕があるかどうかというのは、検査数はかなり増えてきているが、何とか必要な検査についてはできているという状況と考えている。

(3) 南信州地域公共交通計画(素案)の概要について(資料No.3)【説明者:松江事務局次長兼総務課長】

資料の「南信州公共交通システム」に、この圏域の現状を示している。大きく3つの路線に分けて考えている。基幹路線は、JR、駒場線、阿南線、阿島線で複数の市町村を結ぶ路線。準基幹路線は、基幹路線に準ずるもので、複数の市町村を運行し、かつ基幹路線に接続するもの。支線は、各市町村内で運行し、基幹路線及び準基幹路線に接続するもの。それぞれが連携していくようなネットワークを作り上げている。

・現状認識と課題について

自家用車による移動に慣れた高齢者の公共交通への転換が進んでいない。送迎に頼る高校生が多いので、公共交通への利用転換の余地が残っていると思われる。

運行の態様としては、非常に細かく運行をしているが、地域住民以外にはわかりにくいものとなっている。

多くの路線では、国の補助金を活用している。持続可能な運行形態を確立するために、運行見直しによる運行経費の削減と利用者増が必要。

観光等による来訪者の二次交通は、専用路線を作るのは難しい状況にあるので、既存路線の見直しによる活用、あるいは別の手段として観光タクシーの運行を考えていきたい。

経路検索への対応及び将来のMa a Sの進展に向けて、路線バスの時刻表と地理的情報をGTFS-JPにより整備し、オープンデータ化することが必要。

公共交通事業者の運転手不足、高齢化が深刻な問題になっている。

その他、バリアフリー、環境配慮型車両等の導入環境整備や、新型コロナウイルス感染症への対応が必要となっている。

・基本方針、目標について

基本方針は、「リニア時代に備えて、住む人に優しく、訪れる人にも使いやすい地域公共交通システムの実現」とする。

目標は5つ。

目標1、移動不便地区の解消。移動手段が整備されていない地区があるが、令和7年度までにそういった地区を0にする。

目標2、利便性の向上。運行経路、ダイヤ、運賃等を見直して、より使いやすい公共交通とし、一定程度の利用者を確保していく。

目標3、持続可能な運行の確立。効率的な運行を目指し、運行経費に対する運賃収入の比率を高めていきたい。また、公共交通事業者の事業継続に対して支援を行っていく。

目標4、来訪者の移動手段の確保。既存路線を活用した二次交通の確保や、観光タクシーによる観光ルートの開拓等新たな移動手段の構築、普及を進める。

目標5、新技術の導入に向けた取組み。経路検索のオープンデータ化GTFS-JPを、基幹路線、準基幹

路線、観光路線全てに整備していく。

・実施事業について

取組主体は、広域連合が事務局を担っている南信州地域交通問題協議会だけではなくて、市町村、交通事業者、観光事業者等がそれぞれの役割を持って取組んでいくこととする。

特徴的な事業は、移動不便地区の解消として需要のある移動不便地区に移動手段を整備することや、利用促進として高校生の更なる利用を目指し片道定期券の検討を行う。事業者支援では、タクシーの貨客混載や、タクシー便利屋など新しい形態も出てきているので、そういうものも導入していきたい。その他、観光タクシーの普及、GTFS-JPの導入など取組んでいく。

・進捗管理について

今年の3月までの網形成計画の反省としては、進捗管理ができていなかったこと。この新しい計画からは評価シートを個別に作り、毎年検証を行い見直していく。

・パブリックコメント等について

現在、パブリックコメントを行っている。また、市町村の地域公共交通会議でも資料を示して、意見をいただいている。年度内には、検討委員会の案を策定する。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(4) 飯田広域消防本部から(資料No.4)【説明者：有賀消防次長兼総務課長】

火災発生状況について、今日現在で1月は3件の火災が発生している。年末年始に住宅火災の全焼が増えているので、しっかりと啓発をしていく。

令和2年の火災・救急・救助統計について、1月21日に記者発表する予定。火災は昨年75件で、対前年比21件のマイナス。たき火等に起因する火災が、全体の40%を占めている。救急は昨年6,615件で、対前年比749件のマイナス。急病は10%減少し、マイナス520件。救助は、救急件数と同様10%の減で87件。新型コロナウイルスの影響もあったのかなど、分析を行い記者発表する。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(5) いいむす21登録判定について(資料No.5)【説明者：櫻井課長補佐兼広域振興係長】

3件の登録判定をお願いしたい。3件とも更新で、取組区分はいいむす21。

- ・有限会社飯田スクリーン工業、81ポイント。
- ・株式会社丸久龍江工場、74ポイント。
- ・南信州広域連合飯田広域消防本部・飯田消防署、94ポイント。

3件とも市町村の資格審査に合格し、ISO研究会の審査で適合の判定を受けている。

→ 異議なし、承認。

(6) 後援依頼について(資料No.6)【説明者：加藤課長補佐兼庶務係長】

今回後援依頼は1件。

「オーケストラと友に音楽祭2021」で、毎年後援依頼があり、その都度承諾いただいているもの。令和2年度は中止になっている。令和3年度は、5月1日(土)～5月4日(火・祝)まで開催される。

→ 異議なし、承認。

(7) その他

・家庭用リゾットセットについて

「マーケティングの視点による持続可能な地域づくりプロジェクト」の「自信と誇りの持てる農業の再構築事業」では、市町村職員、生産者と事業化に向けて取組んでおり、今回家庭用リゾットセットが完成したので、プロジェクトの成果として報告する。

農業の再構築事業では、「和みリゾット」と呼ばれる品種でリゾット専用米を栽培している。このお米を使い、家庭で手軽に本格リゾットを作れるように、職員と生産者がマーケティングの視点を踏ま

え、様々な検討を重ね商品として作り上げたもの。

現在、地域内の道の駅やスーパーと商談を進めており、話がまとまったところから順次販売を開始していく。680円で販売していただくことを見込んでいます。

・第6回南信州民俗芸能継承フォーラムについて（中止）

2月6日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、フォーラムは中止とする。

→ 説明内容確認、質疑なし。

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

新型コロナウイルス感染症対策について説明させていただく。

県の対策本部において、1月14日に南信州圏域が感染警戒レベル4の特別警報Ⅰを発出、全県対象に医療非常事態宣言を発出、さらに1月16日には飯田市を感染警戒レベル5に引き上げ、特別警報Ⅱを発出した。

・医療非常事態宣言について

年末年始の人の動きにより、県内でも新型コロナウイルス感染症の陽性者が急激に増加したため、医療の負担が増加しており、早急に新規陽性者数を減少に転じさせなければ、救える命が救えなくなるおそれがあることから、1月14日から2月3日まで全県に医療非常事態宣言を発出した。

特に県民の皆さんにお願いしたい点は、人との接触機会を減らすこと、感染拡大地域への訪問を極力控えること、大人数、長時間など感染リスクが高い会食を控えること。

県としての対策強化では、保健所体制の強化、療養体制の強化、ワクチンの円滑接種に向けた体制の整備、県民・事業者の皆様へのお願い積極的な広報を行っていく。

全県の感染警戒レベル3以下、かつ受け入れ可能病床数に対する入院者の割合25%未満を、2月上旬までに実現できるように全力で取り組んでいく。

市町村においては、保健師の応援、ワクチンの円滑接種、住民への広報など、協力を改めてお願い申し上げます。

・南信州圏域の特別警報Ⅰについて

飯田市を除く13町村が対象。

県民及び事業者の皆様へのお願いとしては、医療非常事態宣言の発出を踏まえてのお願いを遵守していただきたい。

南信州圏域の事業者の皆様へ、①飲食店などにおける感染拡大予防ガイドラインの遵守、②オフィスや工場など職場での感染防止対策の徹底、③クラスター対策のさらなる徹底をお願いする。

・飯田市の特別警報Ⅱについて

当面1月31日までの間、感染警戒レベルを5に引き上げ、新型コロナウイルス特別警報Ⅱを発出する。

飯田市における県の対策強化の一環として、飲食店の従業員等に対し集中的な検査を行う。また、県の公共施設について休止等の検討にも取り組んでいく。

特に、飯田市中心市街地の接待を伴う飲食店、酒類の提供を行う飲食店等を対象に、ガイドラインを遵守していない店舗は休業、ガイドラインを遵守している店舗は20時までの営業時間短縮を要請する。

事業者を始め、県民の皆様には、ご心配、ご負担をおかけするが、この難局を乗り切るため南信州地域振興局においても全力で取り組んでいく。

(2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし。

(3) 飯田保健福祉事務所

新型コロナウイルス感染症について、私どもの保健所業務の応援ということで、市町村においては保

健師を派遣等していただき、非常に助かっている。この場を借り感謝申し上げる。今後とも、ご理解、ご協力をよろしくお願いしたい。

5 当面の日程について

1月19日(火) 平谷村長選挙告示(1月24日投票)

6 その他

連合長 : 予定していた案件はこれで終了だが、本日最後の出席となる平谷村長と大鹿村長から一言ごあいさつを頂戴したい。

平谷村長 : 来月4日までが任期で退任となる。4期という長きにわたり、皆様に支えられて務めてきた。広域連合の副広域連合長という役職をいただいたが、皆様の期待に応えられなかったことがあったかと思う。お許しいただきたい。

私より皆さんは若いので、新型コロナウイルス感染症を乗り切ることと、地域の発展に向けて力いっぱい頑張っていたいただき、長く続けていただきたい。長い間、本当にありがとうございました。

大鹿村長 : 1月23日までが任期となる。広域連合会議に出席させていただくようになり、最初の頃はリニア駅をどこに作るか、次は定住自立圏、それから桐林クリーンセンター、稲葉クリーンセンター、さらには竜水園の改善など、村との関わり合いや、飯田市との関わりも沢山あるということ、しっかり勉強させていただいた。そういった面で、それぞれの皆さんが違う意見を持っており、この広い地域がしっかりまとまっていくということは、大変なことだと実感している。それでも、進んできたということもしっかり実感させていただいている。

未熟な者が12年間務めさせていただき、大変ありがとうございました。今後ともこの地域がしっかりまとまっていけるように期待をし、出席されている首長方、関係する皆様方が、健康で頑張っていたいただき、長くこの地域を支えていただきたい。長い間、大変ありがとうございました。

連合長 : 残る市町村長を代表して、お礼を申し上げたい。

それぞれ、16年、12年という長い間、この地域のためにご尽力いただき、本当にありがとうございました。

小池村長のあいさつにもあったように、残る市町村長は若い者が多いので、どうか立場が変わっても引き続きご指導いただきたい。また、引き続きご活躍されることを心から祈念しております。本当にありがとうございました。

7 閉会…15:15